

かわむら **こども** クリニックNEWS

Volume 22 No 5

250号

平成26年 5月 8日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

たどり着いたらいつも…

院長

さて、今月号は創刊250号にあたります。昨年の2月で20周年を迎えたわけですから、21年をかけてやっとの思いで250号に辿り着きました。吉田拓郎（読者では知らない人の方が多いかも）の唄に「たどり着いたらいつも雨降り」というのがありました。吉田拓郎は、ずっとずっと遠い昔、院長にもあった青春時代に出逢ったフォークソングシンガー。「たどり着いたらいつも雨降り」は歌のサビの部分ですが、幸い自分の場合は「たどり着いたらいつも雨上がり」だったのかもしれない。


多くの読者が生まれる前の1978年に杏林大学を卒業後仙台に戻り、国立仙台病院（現仙台医療センター）小児科で研修を始めました。その後新生児医療に憧れ、国内最先端の国立小児病院新生児科の門をたたき、当時の内藤医長の強い影響を受け、新生児医療の道を歩むきっかけとなりました。その後、1985年新生児集中治療室（NICU）設立のため日立製作所日立総合病院に赴任、翌年NICUが開設し新生児科初代科長に就任いたしました。NICUは忙しく不眠不休の毎日でしたが、理想を求めた施設をゼロから育て上げる喜びは、どんな苦勞にも勝るものでした。体力限界を感じて仙台に戻る際、日立市の新生児医療の貢献により市長からの感謝状を頂いたことは忘れられない思い出のひとつです。

父の死から4年後診療所を立て替え1993年2月「かわむらこどもクリニック」を開業しました。少し格好を付けると、「母親の流す悲しみの涙と喜びの涙で育てられた小児科医が地域医療に貢献するために開業した」ということになるのでしょうか。「母親の不安・心配の解消」を理念に掲げ開業し、理念をカタチにするために様々な活動に取り組んでいます。院内報から始まった理念を基にする取り組みは、その後ホームページ、医療相談、育児サークル等に発展して、現在ではYouTube 更にはF.B. ページへと発展してきたのがご存知の通りです。1994年6月にA型肝炎に罹患し、開業わずか1年で入院の憂き目となりましたが、多くの小児科医の協力、スタッフの努力と家族の支えにより無事乗り切ることができました。2004年には第1回病院広報企画賞（NPO

HIS 研究センター）受賞し、表彰のため初めて高知県を訪れました。2010年には仙台小児科医会会長に就任し、髄膜炎関連ワクチン助成等に取り組みました。2011年には「新型インフルエンザの感染の研究」、小児科医会会長としての功績により、仙台市医師会学術奨励賞を受賞しました。さらには「母親の不安・心配の解消」を基にした子育て支援活動の継続が高い評価を受け、2011年「子ども若者育成・子育て支援功労者」内閣府特命担当大臣表彰受賞は身に余る光栄でした。家族3人で首相官邸に招待され、野田総理臨席のもと蓮舫内閣府特命担当大臣より表彰状を手渡されたことは夢のようでした。もう二度と来ることないと口に出しながら。心では「また来て、もっと上を狙うぞ」と決意している誰かがいました。おニューの靴を履いたことが災いしたのか、それとも緊張のせいかわからず、途中から痛くて歩けなくなってしまいました。次は履き慣れた靴で望もうと思っています。学生教育への貢献から、2013年には東北大学医学部小児科臨床教授に就任しています。さらに2014年2月からは、仙台市医師会理事となり、さらにさらに忙しい日々を過ごしています。

他にもいくつか診療以外の活動に取り組んでいますが、全て「母親の不安・心配の解消」の開業理念がもとになっています。ひとつは学生教育で、東北大学医学部の学生実習を15年近く受け入れています。学生実習を受け入れている目的は、“コミュニケーションの重要性を次世代に伝える”ことが目的です。実習では、理念を持つことの重要性、理念をカタチにするための実践、新しいことへのチャレンジ、外部評価の重要性を伝え、最後に“継続は力なり”と。続いては学校医活動です。振り返ると10年前、開業10年以上経って初めて校医就任への打診がありました。校医の教育も受けていない医師が乗り込んだ学校には、様々な問題がありました。幸い理解ある校長と熱心な養護教諭の後押しを受け、健康教育に結びつくことができました。授業から始まった“命の大切さを”伝える4年生の性教育は、親子PTA行事として受け継がれ、昨年から再び授業へと格上げされました。加えて2013年には仙台市医師会学校医総会及び仙台市学校保健会総会の講演を担当しました。近日中に学校医の取り組みがテレビで紹介予定です。

今回は、250号に当たりクリニックと院長の軌跡を振り返ってみました。後悔することも多々ありますが、充実した人生を歩んでくることができました。CLINIC NEWSには様々な記事があります。記事は世の中やクリニックの出来事を記録、時には辛さそして喜びも掲載し、クリニックの歴史を示しています。いつまで続けられるか分かりませんが、引退後の読み物として楽しめるように続けてみたいと思います。もうしばらく、お付き合いをお願いします。



5月のお知らせ

- ・臨時休診
24日（土）午後休診
指定都市学校保健協議会（横浜）
- ・東北大学医学部学生実習
30日（金）ご理解とご協力を！
- ・栄養育児相談
7日、21日（水）13:30～
栄養士担当 参加無料

3.11で東日本大震災から3年 “震災を忘れない！”
『がんばろう！宮城 がんばろう！日本』 復興支援をこれからも！

読者の広場

先月は10通のメールを頂きました。プライバシーに係る相談や講演の依頼等様々でしたが、とりあえず2通のメールを紹介します。

まずは青葉区の前嶋さんからのメール。「先日、ロタウイルスでお世話になった前嶋です。4/26に点滴加療後、次の日には食欲も出てきて前日のグッタリが嘘のように元気になりました。今回別の病院でケトンが出ていると言われ、その病院の看護師さんからキケンであると言われ、不安をおおる様な説明を受けました。

次の日、かわむら先生に診て頂き大丈夫なんだと、安心して加療する気持ちになりました。ただ、下痢と嘔吐で日に日にグッタリしていく子供を見ていると心細くなって大丈夫と分かっているにもかかわらず自信が持てなくなる時もありました。そんな時、看護師さんに話を聞いて頂き気持ちが随分楽になりました。看護師さんの優しさとしべりの高さを感じました。かわむらCLスタッフの皆さんありがとうございました。これからも宜しくお願いします。」

医療機関は患者さんの不安を煽ることは避けなければならないのは当然ですが、基本は当院の理念「お母さんの不安・心配の解消」です。まして母親の心理というもの、悪いところを拡大し良いところを縮小して見てしまいます。家でグッタリしている子がクリニックで元気にしていると、おかしいという母親もいます。どう考えても元気なのに、おかしいはずは有りません。まさに、このメールが母親の心理の典型なのです。心配をいかに軽くして、真実を見てもらうように誘導することもスタッフの役割なのです。“看護師さんの優しさとしべりの高さ”という言葉に、皆よろこんでいました。

さて次は、“むずむず脚症候群”で専門家を紹介した青葉区の匿名さんから。「おはようございます。この度は、〇〇のことで大変お世話になっております。昨日、紹介頂いた子供総合センター付属診療所で受診して参りました。〇〇先生という方に診ていただいたのですが、ムズムズ脚症候群らしき症状で生活に大きな支障がないこと、他には問題がなさそうなこと等から、対症療法で様子をみていこうというお話でした。また、ムズムズ脚症候群に効く薬(リボトリール)を処方して頂き、昨日寝る前に早速飲ませてみました。

薬が効いたのが、心が安定したのが、ムズムズ感が全く無くなった訳ではありませんでしたが、いつもより穏やかに眠りに就いていました。

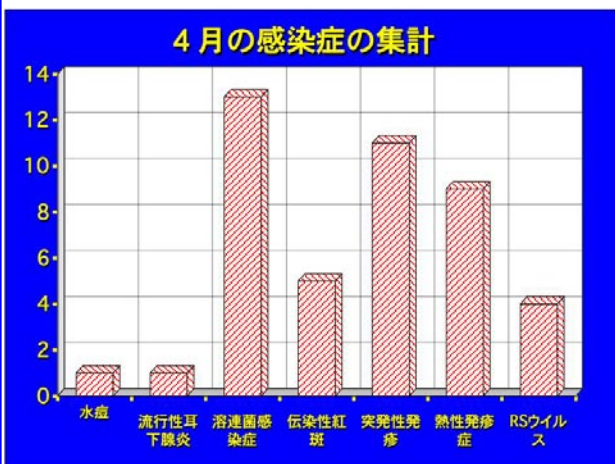
今後、まだどうなるかは分かりませんが、今までどうしていいか分からず過ごしていた所から、一歩前に進むことができ、親子共にとても安心することができました。これも、川村先生のお陰と大変感謝しております。本当にありがとうございました。」

皆さんは、“むずむず脚症候群”という病名を聞いたことがありますか。自覚症状として、じっとした姿勢(特に寝ようと横になった時)主に脚の部分(場合によっては全身各部位)に、「むずむずする」、「じっとしてられない」、「痒い」、「針が刺す」、「火照る」、「虫が這っている」などの異様な感覚が現れ、眠れないなどの日常生活に大きな影響が出るものです。原因は明らかではありませんが、神経伝達物質であるドーパミンが関係しているとも言われています。しかし小児では珍しく、心因的な問題から来る身体症状のひとつであるという捉え方もあります。今回読者の広場で取り上げた意味は、どんな問題・症状でも子どもの病気の入り口は小児科であること、加えて“むずむず脚症候群”という病気があることを知ってもらうために取上げました。



自費料金の改定について

4月からからの消費税8%増税に合わせて、自費診療分(任意予防接種、健診、血液型検査等)が変わります。診断書等(材料が必要ない物)は据置です。尚、定期接種および健診は従来通り無料です。



溶連菌感染症は前月と比べて3倍程度に増加しています。グラフには示していませんが、インフルエンザが前月140人から23人に減りました。情報はMail News, Twitter, F.B ページ等で毎週提供しています。全体的には終息しそうです。感染性胃腸炎は横ばいですが、下旬あたりから増加しています。数は多くありませんが、ロタ・アデノウイルスが検出されています。また、RSウイルスも比較的多くみられました。

Mail News, Twitter, Blog, Facebook の紹介

Mail News は、460人を越えるお母さんが登録。右上のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。

新しい情報発信として Twitter, Blog「子どもクリニック四方山話」、Facebook ページ、YouTube にも取り組んでいます。子育て、医学、趣味、グルメ、旅行記等のおもしろい話題満載。見るだけでも楽しいかもしれません。是非ご覧ください!

Mail News かなり戻ってきます。届かない場合は kodomo-clinic.or.jp をドメイン指定して下さい。



Twitter



Facebook



MailNews



Blog

編集後記

今回は昨年20周年と同じような記事になってしまいました。しかし、これには理由があります。開業20周年と創刊250号を記念して、1冊の本にまとめる計画があります。250号はその本の最後を飾ることになります。となると、それにあつた記事を書かなければなりません。という理由なので、どうぞご勘弁ください。このような区切りを迎えることができるのも、読者を始め、多くの患者さんの支えのおかげです。



K's clinic

麻しん風しんぜ口作戦キャンペーン 『1才のお誕生日にMRワクチンを!!』

『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。